



こんにちは

村田 けい子

2015.11.05
No.26

みなさんのご意見・ご要望をお寄せ下さい。フェイスブックやっています。

発行/日本共産党立科町議会議員 村田桂子 立科町塩沢1483 ☎0267(56)2868

名誉町民15年ぶりに 池の平ホテル&リゾート創設者 故矢島三人(ミット)氏・妻 静子氏のご夫妻に

11・2 臨時議会が開かれ、立科町名誉町民条例の一部改正が審議され、対象を【故人】にまで広げることが決まりました。これまでの条例でも故人を含むことは確認されていましたが、はっきりさせるために条例の一部改正となったものです。

また同時に、矢島ご夫妻を名誉町民として顕彰することに議会の同意が求められ、全会一致で承認されました。

お二人は池の平ホテル&リゾート会長ご夫妻であり、今日の白樺湖周辺の開発に大きな貢献をされたことが評価され推薦され全会一致で名誉町民となりました。

また議案では当初、矢島三人氏おひとりでしたが、議論の中で「今日の繁栄は三人氏一人ではきたものではない。多くの方のご尽力があったが、妻静子氏の役割は大きかった。」「ホテル・旅館などは女将さんで決まるといわれており、三人氏よりもむしろ女将さんの役割は大きいのではないか」などの議論が交わされ、顕彰の対象をご夫妻に差し替えられて提案、承認されました。

因みにこの条例は、平成12年12月に制定され、第一号はミステリー作家の土屋隆夫氏でした。今回は第二号となります。15年ぶりの顕彰となりました。すばらしい提案だと思いました。

私も次の質問・提案をしました。
矢島ご夫妻を名誉町民にすることについては全く異論はないと断ったうえで、

- ①名誉町民の提案は結構であるが、あまりに唐突ではないか。60周年の記念式典で顕彰したいというのであれば、もっと早くから準備を進め、9月議会で議論すべきではなかったか。
- ②規定を設けて対象者を《故人》にまで広げたことから、他にも名誉町民にふさわしい人物がいるかどうか広く推薦を受けるなど、全町民的な議論が必要ではなかったか。
- ③さらに、今後の在り方として、名誉町民の名にふさわしく、全体で議論する仕組みを作るべきではないか。と指摘したところです。

町に名誉町民条例があることは素晴らしいことだと思います。しかし、みんなが郷土の誇りとして顕彰したいと思う方を選ぶ仕組みができていません。合併記念式典は5年ごとに開かれるとのこと、節目の年の前年から、「名誉町民で顕彰するにあたって」と区長・部落長会議などで推薦してもらうようなシステム作りが必要ではないでしょうか。



宇山堰源水を訪ねて

11.3 午前中

町の企画、立科の水源めぐり学習会に参加。

小学生が大勢いて、とても賑やかで楽しい学習会でした。30人近くが参加したでしょうか。

マイクロバスに乗り、女神湖の大駐車場から宇山堰のあるところまで、高原の紅葉真っ盛りの中を進みました。普段は立ち入り禁止となっている場所を特別許可を得てみんなで一列になって進みました。塩沢用水に沿ってクマザサを踏みしだきながら進み、途中で下に下って、「ここが宇山堰の湧き出しです。」水が湧き出ている「縦(モミ)の木湧水」でした。

苔むした石碑があり、かろうじて「宇山堰源水碑」と読めました。ここで水を手ですくって飲んだり、水温を感じたり。サンショウウオを見つけた子もいて記念撮影。ほかに八重原用水の源泉や石樋(とい)も見学。地面の下から水の流れる音……。自然の水琴窟、オルゴールです。40キロに及ぶ石の水路づくり(石樋)で昔の苦労が偲ばれました。先人のみなさん、ありがとうございます。



干し柿の季節です

「田んぼに柿がなってるよ」のお知らせで、土手に生えていた柿をもいで、さっそく夜なべして剥(む)きました。100個、10本のつるしができました。日蔭に干すといいといわれ、物置の中で乾燥させています。出来上がりが楽しみです。

来週は千葉の孫が七五三。夫が作った小豆を使ってお赤飯を炊いていこうかと思えます。



今週のパチリ



スタンディング@たてしな

NO! 「戦争する国」



毎週土曜日
午前11:30
から30分

安保法（戦争法）廃止の署名を始めました。日曜版に折り込んである署名にご協力をお願いいたします。



ツルヤ信号前

「安倍ヤメロ！」 「戦争法廃止！」

時間が11:30
からに変更に

Look!!

11.3 13:00 日本中で「アベ政治許さない」のボードを掲げようというという提案に立科町でも取り組み、7人が参加。佐久地域では8か所92人、長野県全体では59か所825人、日本全国では1,000か所でスタンディングが行われました。今度は12月3日午後1時。大勢で参加しましょう。



沖縄でも
スタンディング、
新基地建設も
許さない!!

11/4総務経済常任委員会で視察研修



京都八坂神社前
えらいごっこ...



佐久穂町ヘスキー場の運営について、どのような工夫をしているのか、研修に行きました。また、小海町には「町づくり応援隊」の研修をしましたが、今日は佐久穂町について報告します。（研修費は自前です。）

イメージキャラクター
しらかばちゃん

旧八千穂村では、村有林2400haを所有していましたが、カラマツ材の下落により何とか収入を得る方法はないかと考え、森林の多目的利用をはかろうとスキー場に。昭和59年のオープンで最初は開発公社、その後、町の直営にして職員が、臨時職員とともにスキー場の運営を担っています。

会計は、策道事業特別会計でやっていますが、不足分（人件費相当分）などは町の一般会計からの補てんでやっています。

お客さんの数は、全体としては減少傾向。しかしH27年度は大きく利用者が増えました。リフト券の料金は決まっていますが、多くの割引料金の設定で、利用者は600人増えているのに、収入が減り（H26年度）修繕費が増えて、差し引き5400万円ほど赤字となっています。その赤字分は町の一般会計から補てんしています。

ここが当町の会計と違うところです。立科町ではすべて策道事業特別会計の中でやりくりされ、しかも、減価償却費や修繕費を入れ込んだ形にしてあるため、赤字分が大きく膨らんでいますが、町会計からの補てんは一度もなくこれまでの積立金でやりくりしています。

《広報に努力》佐久穂町では利用者を増やすためにスキー専門誌には必ず記事を載せ、ラジオの東京、山梨、静岡県内、FMフジ、フリーペーパーなどの広告に力を入れ、誘客努力をしています。立科町での広報活動は、どんな状況なのか、これから調べてみます。

《ここがスバラシイ工夫》・・・町が中心となって

1 お客さんの足の確保のため、冬は無料のシャトルバス、夏は低額の特別便を走らせている。冬は南佐久のジュニアスキークラブの子供と電車でのスキー客のために、白田駅まで無料のシャトルバスを上り（朝1回、昼1回 3時）下り（昼1 夕方4:20）ペンション利用のお客さんも乗せて、足を確保している。町の負担は人件費のみで40万円ほど、（燃料費は別）夏のグリーンシーズン（4月下旬から10月いっぱい）は、佐久平～八千穂高原～茅草峠のコースを土日祝日のみ走らせ、足の確保をしている。一日2往復で、5.5万円の保証することで委託。乗車賃を補てんすれば約3～4万円/日で走らせることができるとのこと。

2、泊まり客をふやす工夫

サンタ&トナカイのコスプレで来た場合のリフト券無料、その格好でたいまつ滑走やキャンドルサービス、星空観察会、コンサートなどを企画し、泊りにつなげる。料理はペンションの持ち寄りで無料。楽しい企画で泊まり客を増やし、職員とボランティアで対応すること。

3、各種イベントを行い魅力アップ

スノーシューでハイキング、抽選で特産品ゲット、雪像づくり、スキー場祭りなど行い、発信。

4、商店街との連携 町の商店を利用すると割引きをされ、リフト券が安くなる。（700円）

44事業所が参加しスキー場との連携強化。